

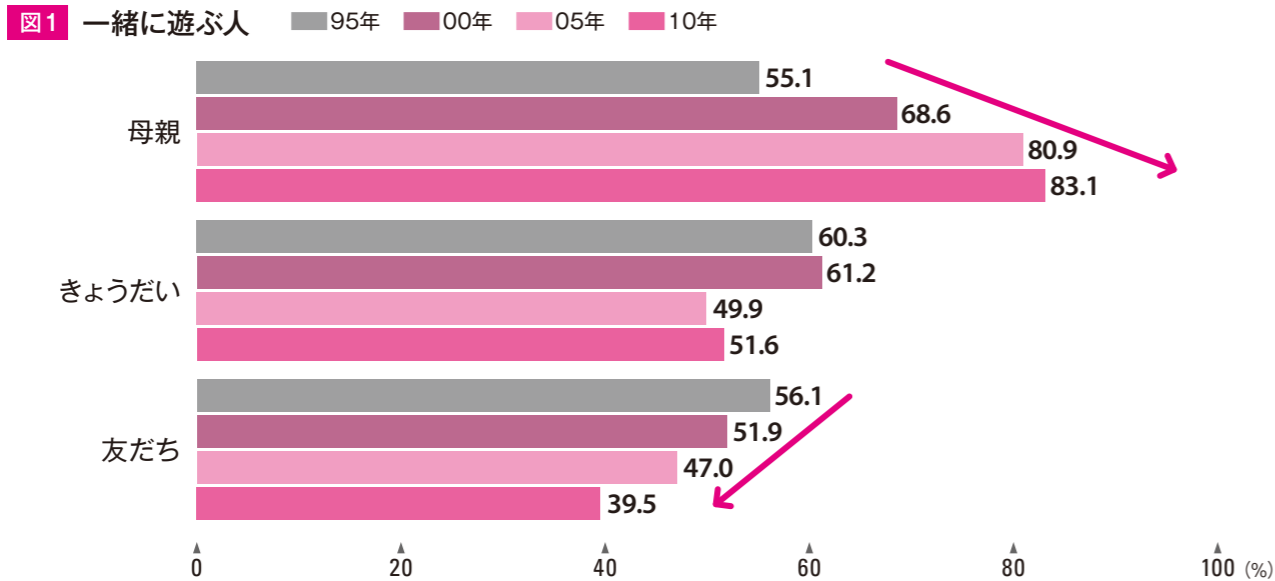
保護者の子育ての実態

ベネッセ次世代育成研究所は2006年の設立以来、乳幼児をもつ保護者の子育てについて、多角的、多面的な調査・研究を行っています。今回は、保護者についての特集にちなみ、複数の調査データから、子育ての実態や意識の現状をご紹介します。保護者支援の参考として、また、保護者会のお話のひとつとしてご活用ください。

引用・転載時のお願い 本調査の結果を引用される際には、該当のデータの調査名称を記載してください（例：ベネッセ次世代育成研究所『首都圏・地方市部ごとにみる乳幼児の子育てレポート（2010）』）。

遊び相手は「母親」が増加し、「友だち」が減少

Q 平日、（幼稚園・保育園以外で）遊ぶ時は誰と一緒にいることが多いですか。



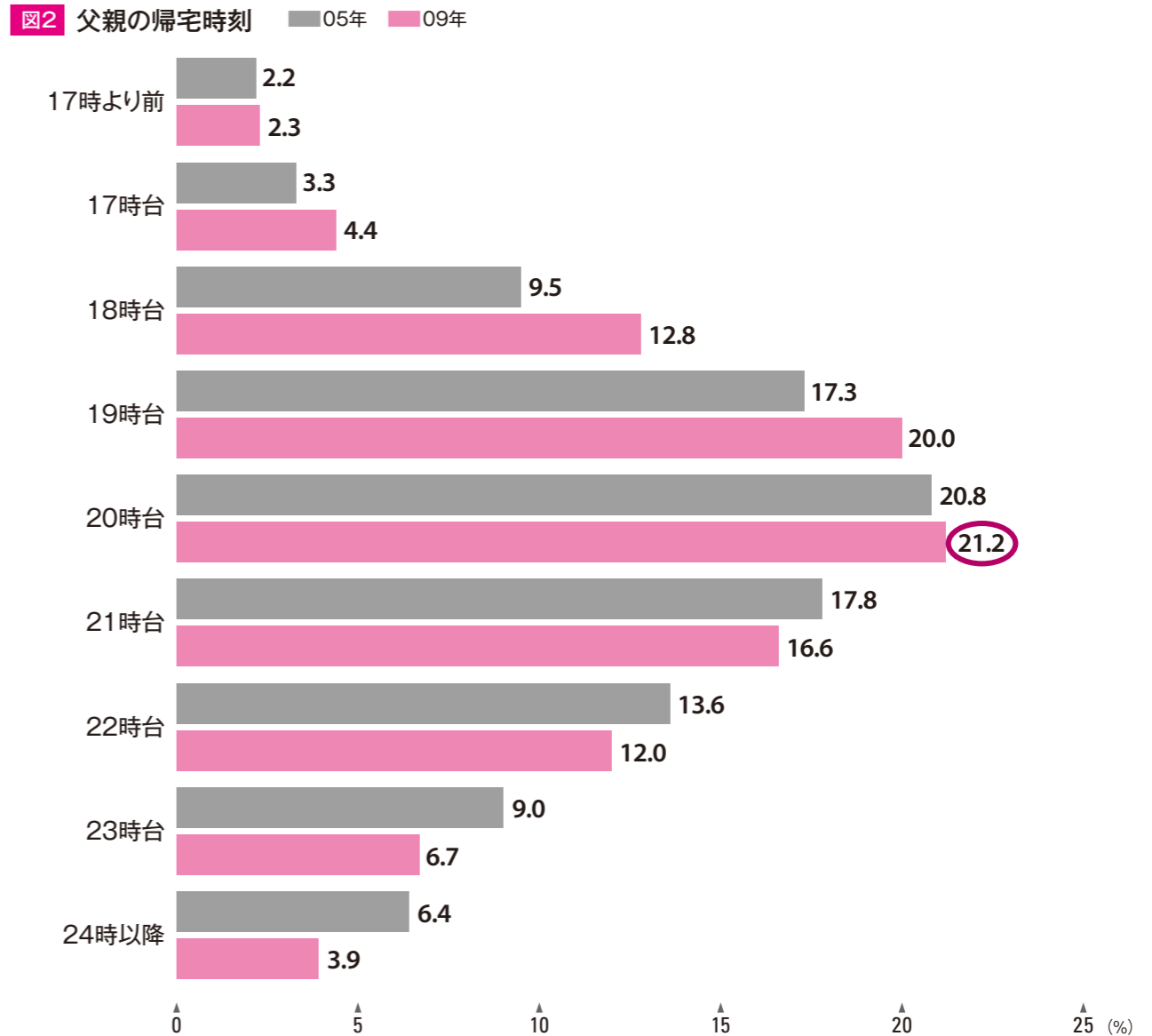
★幼稚園・保育園以外で平日と一緒に遊ぶ人について聞いたところ、この15年で「母親」が増加する一方、「友だち」は減少していました。特に「友だち」は5年前から7.5ポイント減少しており、友だちと遊ぶ機会が減っていることがわかります。背景には少子化の影響や園に滞在する時間が長くなっていることが考えられるでしょう。

出典：ベネッセ次世代育成研究所「**幼児の生活アンケート**」
 調査テーマ：乳幼児の生活の様子、保護者の子育てに関する意識と実態
 調査対象・地域：
 〈第1回調査（1995年調査）〉首都圏の1歳6か月～6歳就学前の幼児をもつ保護者 1,692名
 〈第2回調査（2000年調査）〉首都圏、および地方都市の1歳6か月～6歳就学前の幼児をもつ保護者 3,270名
 ＊経年での比較を行うために、地方都市の回答を分析から除外している

〈第3回調査（2005年調査）〉首都圏の0歳6か月～6歳就学前の乳幼児をもつ保護者 2,980名
 〈第4回調査（2010年調査）〉首都圏の0歳6か月～6歳就学前の乳幼児をもつ保護者 3,522名
 ＊経年での比較を行うために、第3回および第4回調査の0歳6か月～1歳5か月の回答を分析から除外している
 調査方法：郵送法（自記式アンケートを郵送により配布・回収）
 調査時期：第1回調査 1995年2月／第2回調査 2000年2月／第3回調査 2005年3月／第4回調査 2010年3月

父親の帰宅時刻は「20時」台が最も多い

Q 平均して何時ごろ仕事から帰宅することが多いですか



★父親の帰宅時刻として最も多かったのは「20時台」、次いで「19時台」「21時台」でした。05年の調査と比較すると09年の帰宅時刻のほうが全体に早い傾向にあります。一方で、21時以降に帰宅する父親は全体の約4割ということもわかりました。父親の帰宅時刻が遅いため、平日、子どもと過ごす時間が少なくなっているようです。

出典：ベネッセ次世代育成研究所「**乳幼児の父親についての調査**」
 調査テーマ：乳幼児の父親について、子どもや妻との関係、家事・育児への関わり、仕事と家庭のバランス、子育て観や将来への期待
 調査対象・地域：
 〈第1回調査（2005年調査）〉首都圏の0歳～6歳就学前の乳幼児をもつ父親 2,956名
 〈第2回調査（2009年調査）〉首都圏の0歳～6歳就学前の乳

児をもつ父親 4,574名
 調査時期：第1回調査 2005年8月 第2回調査 2009年8月
 調査方法：インターネット調査

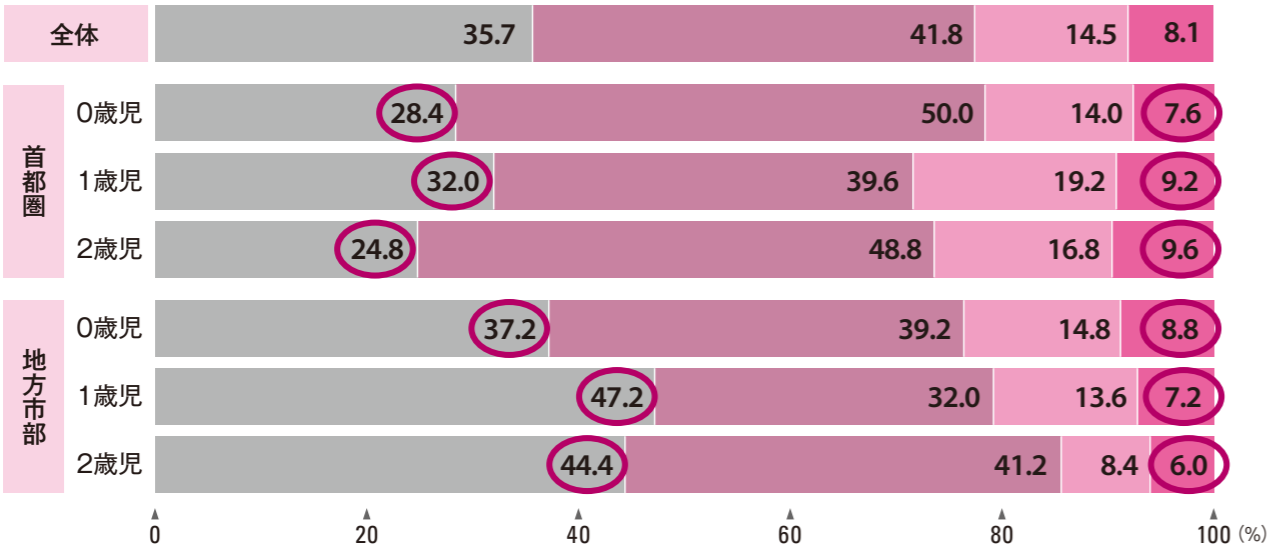
祖父母の手助けは地方市部のほうが厚い

Q お子さまの祖父母からの手助け状況に最も近いのはどれですか。父方か母方かは区別せずに、どちらの祖父母からの手助けも合算してお答えください。

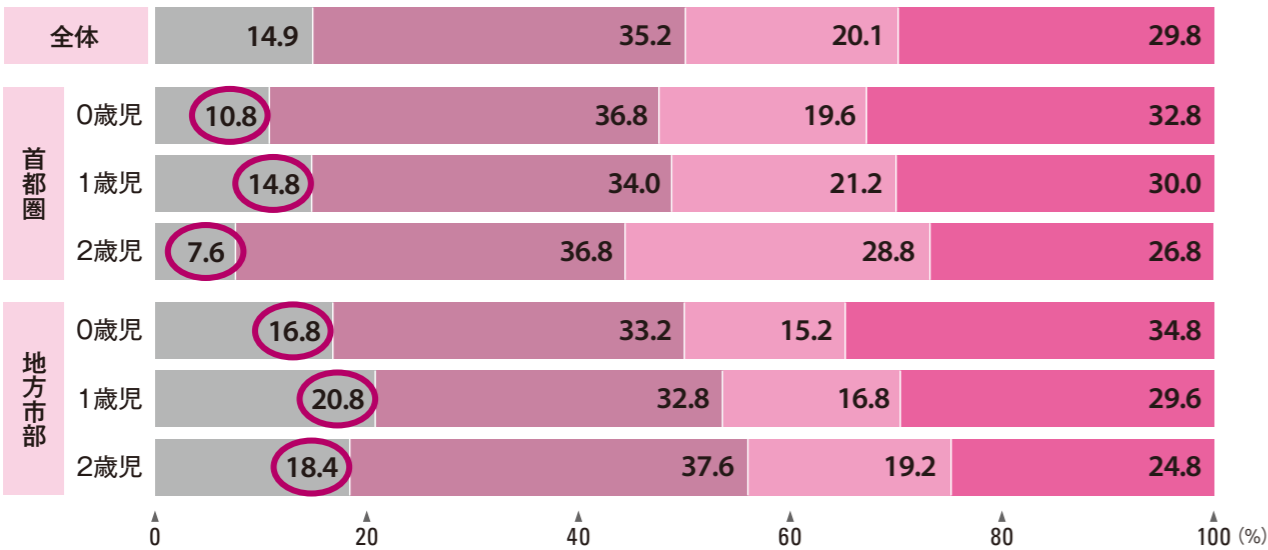
図3 祖父母からのサポート

■ 日常的に ■ たまに ■ ごくたまに ■ まったくない

■ お子さまと遊んでもらう



■ お子さまを預かってもらう



注1: 「ほとんど毎日 + 週に1・2回程度」を「日常的に」、「月に1・2回程度 + 3か月に1回程度」を「たまに」、「半年に1回程度 + 年に1回程度」を「ごくたまに」に置き換えて図示した。注2: 対象は0~2歳児をもつ母親

★祖父母からの手助けについて、年齢・地域別でみると、「お子さまと遊んでもらう」について、「まったくない」と回答した比率に地域差はほとんど見られませんでした。一方、「お子さまと遊んでもらう」、「お子さまを預かってもらう」のいずれも、「日常的に」と回

答した比率は、どの年齢においても地方市部のほうが高く、祖父母からの日常的な手助けは地方市部のほうが多いと言えるでしょう。

出典: ベネッセ次世代育成研究所「首都圏・地方市部ごとにみる乳幼児の子育てレポート」(図3・4ともに)

調査テーマ: 0~2歳児とその母親の生活の様子、子育て支援の状況

調査対象: 0~2歳児をもつ母親1,500名

調査地域: 首都圏: 東京駅から40km圏内の市区町村 / 地方市部:

東京駅から40km圏、大阪駅から30km圏、名古屋駅から20km圏を除く中核市、特例市、人口120万人以下の政令指定都市

調査時期: 2010年9月25日、26日

調査方法: インターネット調査

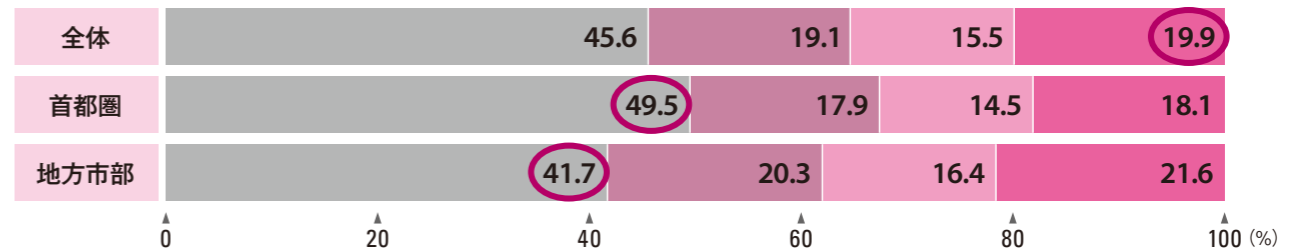
約5人に1人の母親は地域で声をかけてくれる人がいない

Q 地域の中で、子どもを通じたお付き合いの状況にもっとも近いのはどれですか。

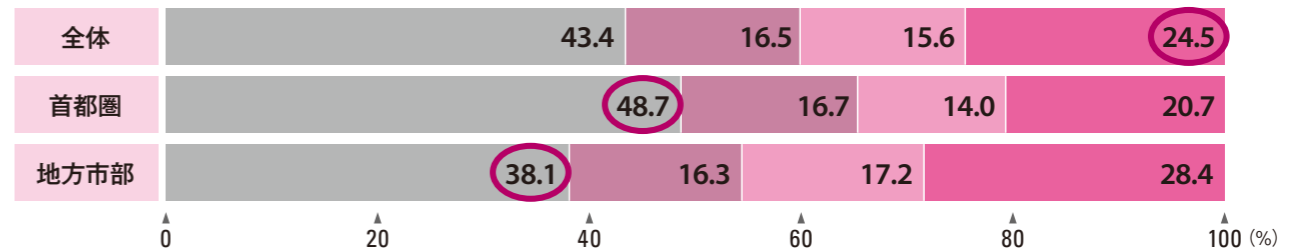
図4 地域の中で子どもを通じたお付き合いの状況

■ 3人以上いる ■ 2人くらいはいる ■ 1人はいる ■ 1人もいない

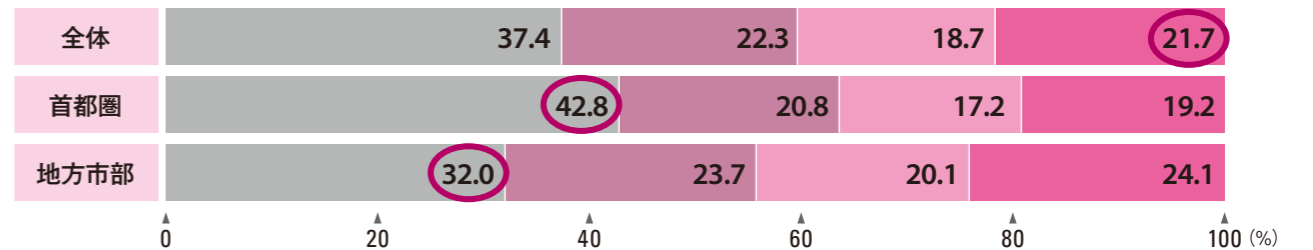
■ お子さまのことを気にかけて、声をかけてくれる人



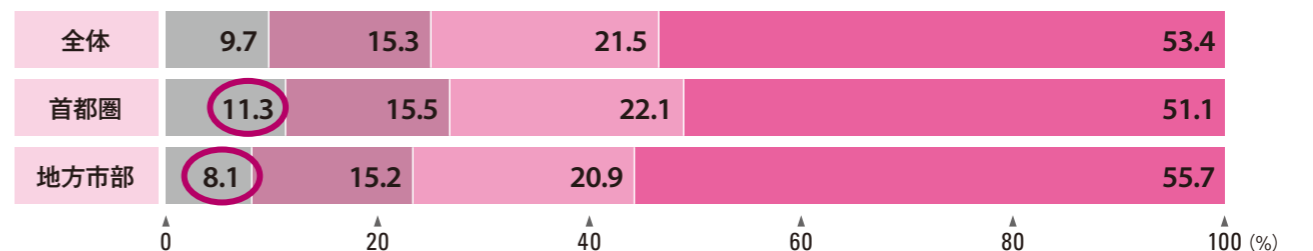
■ お子さま同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人



■ 子育ての悩みを相談できる人



■ お子さまを預けられる人



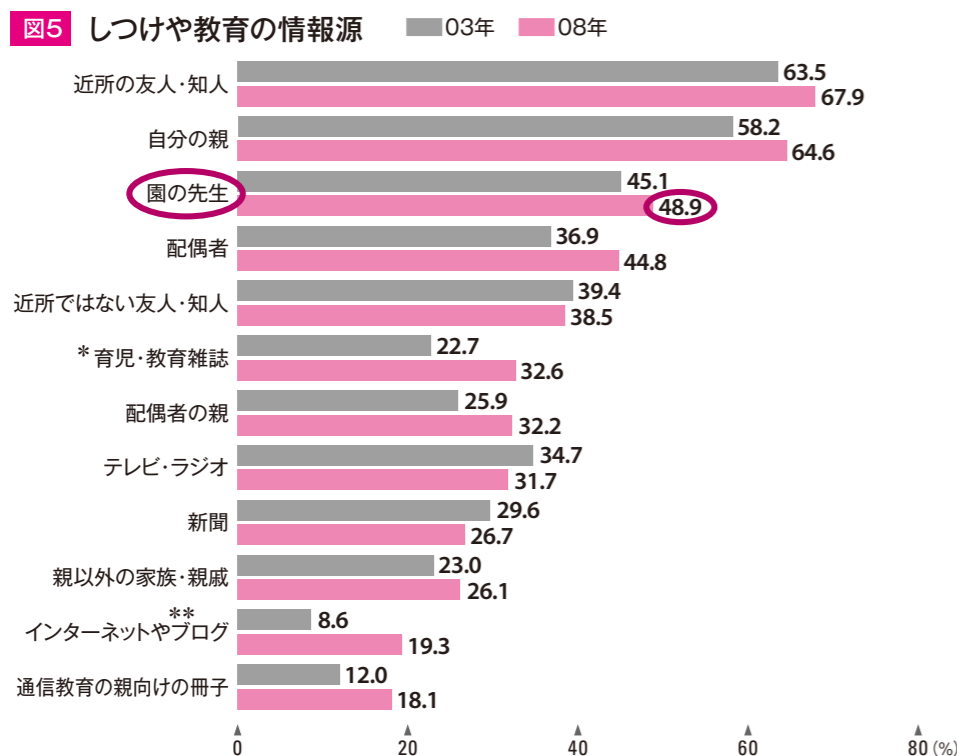
注1: 対象は0~2歳児をもつ母親

★ここでは、地域の中で子どもを通じたお付き合いについて聞いています。全体で「1人もいない」と回答した比率をみると、「お子さまのことを気にかけて声をかけてくれる人」、「お子さま同士を遊ばせながら立ち話をする程度の人」、「子育ての悩みを相談できる人」がいずれも20%前後でした。約5人に1人の母親が子どものことを気にかけて、声をかけてくれる人が地域に1人

もいない状況で子育てをしていることがわかります。地域別でみると、いずれの項目も「3人以上いる」と回答した比率は首都圏よりも地方市部の方が低く、地域の中で子どもを通じた付き合いが少ない傾向がみられます。孤独な子育てから母親を救うために、地域の人との交流の拠点として園の存在がますます重要になるでしょう。

しつけや教育の情報源は「園の先生」が約半数

Q お子様の「しつけや教育」についての情報をどこから(誰から)得ていますか。



★子どものしつけや教育についての情報をどこから得ているかを複数回答で選択してもらった結果、「近所の友人・知人」「自分の親」に続き、「園の先生」が上位に並びました。また、上位4つまでは、03年に比べてすべて増加していて、情報収集への熱心が表れています。

注1:複数回答
注2:その他を含む21項目のうち、12項目を図示
注3:*は03年調査では「育児雑誌」
注4:**は03年調査では「インターネット」
注4:対象は3~5歳児をもつ保護者

出典:ベネッセ教育研究開発センター「子育て生活基本調査(幼児版)」

調査テーマ:幼稚園・保育園をもつ家庭での子育ての実態、およびしつけや教育に関する保護者の意識

調査対象・地域:

(第2回調査(2003年調査)) 首都圏、地方都市、郡部の幼稚園・保育園をもつ保護者 4,471名

※このうち、分析は首都圏の母親(3,477名)のデータを用いた。

(第3回調査(2008年調査)) 首都圏、地方都市、地方郡部の

幼稚園・保育園をもつ保護者 6,131名(配布数 8,238通、回収率 74.4%)

※このうち、分析は首都圏の母親(3,069名)を中心に行った。

調査時期:第2回調査 2003年9月~10月/第3回調査 2008年9月~10月

調査方法:幼稚園・保育園通しによる家庭での自記式質問紙調査

調査データからわかること

育児の状況を踏まえて家庭支援を



東京福祉大学
社会福祉学部
保育児童学科 准教授
荒牧美佐子
専門◎発達心理学、
育児感情、子育て支援

データを見て感じることは、「育児の孤立化」と「地域のつながりの弱さ」です。その結果、育児において父親や祖父母はもちろん、園の役割も大きくなっていることがわかります。園への期待が高まっている背景には、園の先生は専門家でありながらサポートを受ける心理的ハードルが低く、母親が相談しやすいということがあるのでしょう。

ですから、園の先生は子どもの支援だけでなく、保護者を含めた「家庭」全体のサポートが重要になります。保護者がどのような環境で子育てしているかを会話の中で把握するなどして、安心して相談できる関係性を作りましょう。そのような保護者の支援が子どもへの成長支援にもつながっていきます。

調査報告書をご希望の場合

ベネッセ次世代育成研究所では、乳幼児をもつ保護者のさまざまな子育て意識や実態に関する調査を行っております。調査速報版・報告書のデータは、ベネッセ次世代育成研究所と、ベネッセ教育研究開発センターのホームページでご覧いただけます。

<http://www.benesse.co.jp/jisedaikin/>

<http://benesse.jp/berd/>

若手保育者の声

先輩に、自分の保育のよいところ、あらためるべきところをはっきりと指摘されると、かえって**自信がもてます**

あなたはここがよいところね!と**具体的にほめてもらう**と次もがんばろうと思えます

第2特集

保育者がのびのび育つ

園の風土づくり 8つのアイディア

大きな夢と情熱をもってこの仕事を選んだ

若い保育者を育てていくことは、次代の園の土台作りであるといえるでしょう。新年度がスタートして1か月余り。

若い力がその輝きを保ったまま、先輩保育者の中で豊かな経験を積み重ねていけるような園の風土づくりについて考えます。

保育に対する考えが違ったときも、私の考えを**尊重した上で**、園としての方向性を話そうとしてくれるので、気後れすることなく意見が言えます

なにか疑問があったときに、自分の中で抱え込まず、**すぐに話し合える**今の環境が大好きです

私も悩んでいると先輩が正直に言ってくれることで、**仲間意識や連帯感**を感じられます